

- 種イモ、早くもキタアカリ枯渇
- ねぎ苗はお早目の確保を
- ミョウガ、ショウガ、アスパラあります
- 生産事業部、いよいよ定植開始！？
- 4月新メンバー加入決定！
- ナカツタイムスで一か月の短さ痛感

# ナカツタイムス

2026年  
4月

## 野菜苗 4月23日から販売開始

### 色鮮やかな「フルーティーパーマン」一押し

ナカツタヤによる野菜苗の販売が、今年も始まる。その特徴は地元産にこだわった高品質な苗にある。播種から育苗までの管理の良し悪しが、定植後の生育を大きく左右するため。近年は高温傾向が続く中でも、「良い苗」であるかどうか収穫の差につながる。そして、

ナカツタヤによる野菜苗の販売が、今年も始まる。その特徴は地元産にこだわった高品質な苗にある。播種から育苗までの管理の良し悪しが、定植後の生育を大きく左右するため。近年は高温傾向が続く中でも、「良い苗」であるかどうか収穫の差につながる。そして、

で管理された苗は、冷涼な環境で鍛えられており、畑に定植後も安

定した生育が期待でき。 「マラソン選手が大会前に高地トレニ

### ナス苗は高耐病性の台木にこだわり

「有馬記念の開門直前」も形容されるほど行列ができる。人気の理由は、何よりも「地元産」の苗の豊富さにある。種まきから育苗までを標高の高い松本平

ングをする」だいたいそんな感じである。また、台木へのこだわり

も特徴の一つだ。接ぎ木ナスの台木には、耐病性に優れる「トルバ



特設テントに定番～地場品種まで所狭し並ぶ

「向こうから車がきたらどうしよう」と来店するお客様が通行するのを嫌うナカツタヤ店舗駐車場につながる片側交互通行の「線路下恐怖トンネル」。拡張工事が長年切望されているが、どうやら当分のままの模様だ。かつては松本市内から山形、朝日に向かう主要道路と線路が交差する踏切であった。踏切を手動で上げ下げするため「踏切守」の待機小

屋も存在していたというから驚きだ。今も残っていたら撮り鉄だらけだ。現在は、生活道路に代わっており、すぐ横に川もあり工事難易度も高そうだ。関係者によると「常に交互通行のアンダーパスは非常に珍しい」とのこと。ここを通って通学する高校生は、引き続きこのトンネルを自転車で駆け抜ける恐怖を味わうのはほどほどにして、十分気を付けてほしい。

### 店舗へのアクセス 拡張工事は絶望的

△を継続して採用している。扱いが難しいとされる品種だ。「簡単だが危ない橋」は渡らない。時々石橋も渡らない。そんな社風が

ちがつく。こうした中、昨年から本格販売を開始した「フルーティーパーマン」が、今年の注目商品だ。鮮やかな色合いとクセのない味わいが特徴で、幅広い料理に活用できる。収穫期には連日の収穫できるほどの実りが期待できる、かもしれない。



フルーティーパーマン

### コンゲツのひんしゅ

#### 「ぎんれい絹さやえんどう」



「これだ。これが暑い中でも一番育つ——」。昭和30年代のある猛暑の日、ナカツタヤ2代目の草間嘉門氏（故）は、そう声を上げたという。当時は遺伝子解析などの技術がなく、品種選定は実際に栽培して見極めるほかなかった。各地から取り寄せた数十種類のさやえんどうを試験的に育て、その中から選り抜かれたのが、現在も販売されている「ぎんれい絹さやえんどう」である。中でも、当時北海道から導入された品種は、現在では県内で広く流通する代表的なさやえんどうとして定着している。今年もまた、その種子と苗が店頭並び、長年受け継がれてきた品質の確かさを伝えている。



昭和40年ごろの線路、かつては踏切だった